

産業日本語のガイドライン策定に向けて

Toward the formulation of Technical Japanese Guidelines

東京工科大学名誉教授 **横井 俊夫**

PROFILE: 1966年に電気試験所（現在：産業技術総合研究所）。1982年より第五世代コンピュータプロジェクトを推進。1987年より電子化辞書プロジェクトを推進、運営。1995年よりフィリピン国 ODA プロジェクトを推進、指導。1997年より東京工科大学。2008年より Japio 特許情報研究所顧問。東京工科大学名誉教授、工学博士。

✉ yokoi@stf.teu.ac.jp

産業日本語という枠組みのもとに議論が始まって5年程が経つ。個別の議論の積み重ねをまとめた共通のストーリーにまとめ上げる時機が来たと思われる。想定される共通ストーリーのひとつに、産業日本語ガイドラインがある。ここでは、ガイドライン策定に向けて留意すべき観点を挙げ、策定の議論を展開する方向性を提案する。そして、ガイドラインに含まれるべき要点を挙げる。

ガイドラインは、産業日本語における日本語自身や文章ライティングに関わる諸側面の望ましい姿を描き出す。そして、個々のライティング現場での環境構築をガイドする指針を与える。ガイドラインの議論を進めるに際して留意すべき観点として、とりあえず、ここでは、次の2点を取り上げる。

- (1) 産業日本語に対する産業界のニーズは、底流としては大きい。しかし、そのニーズに組織立って対応しようとする意識する段階には至っていない。すなわち、産業界のニーズは、自覚的なものではない。
- (2) 日本人は、日本語を使うことができる。しかし、日本語を言葉の仕組として知っているわけではない。すなわち、日本人の日本語知識は、自覚的なものではない。

これら2点の検討を踏まえた上で、産業日本語ガイドラインの骨格となる要点、すなわち、ガイドラインのガイドラインを点描する。

1 産業界のニーズは、自覚的なものではない

産業日本語というからには、まずは、産業界のニーズを何うのが手順である。そう考えるのが極々常識的である。産業界は、どのような日本語のあり方を求めているのか。産業界の意向に沿って、検討をすすめるのが筋ではないか。そもそも、産業界にさほどのニーズがないとしたら、「産業界にとって望ましい日本語とは」などと声高に論ずるのは、僭越にすぎるのではないか。そうして、産業界の意向を何う場が設けられ、然るべき産業人が招かれ、ご高説を何うことになる。

見識ある産業人は、日本語に関しても必ず一家言をもつ。しかし、その一家言を拝聴した後には、ある種のもどかしさが残る。あくまでも、産業人の個人的な体験や個人的な見識の披瀝なのである。我が社としての課題や我が社としての取り組みが述べられるわけではない。いわんや、産業界全体の方向性などに言及されることはない。

企業における生産活動の活発さや効率の良さと企業組織におけるコミュニケーション活動の活発さや効率の良さ、この2つは表裏一体である。そして、コミュニケーション活動の中核には、言語コミュニケーションがあり、日本のコミュニケーション活動の中核には、日本語コミュニケーションがある。

日本は、貿易立国というビジネスモデルを発明し、ジャパン・アズ・ナンバーワンと評される高度経済成長を遂げた。バブル崩壊の後も2000年代の半ばまで、その余韻は続いた。アメリカの、あるいは、西欧の上下的・

階層分業的なコミュニケーション活動様式を日本の水平的・共同体的なコミュニケーション活動様式が凌駕したのである。もちろん、日本の活動様式は、終身雇用、年功序列、企業別組合、企業系列という日本的慣行に支えられたものであった。そして、日本語も、産業日本語としての然るべき役割を果たしたのである。日本の産業界にとっては、まさに、ジャパニーズ・アズ・ナンバーワンであった。

2000年代後半から、余韻も薄れ、失われた10年、あるいは、失われた20年と称される模索の時代の渦中が始まる。そして、いまだ、その模索は続いている。日本産業界は、生産活動様式にもコミュニケーション活動様式にも大きな変革を迫られる事態となった。変革を迫るものの基底にあるのは、グローバル化とICT化という2つの要因である。

日本産業の生産活動様式の変容の有様については、「港徹雄：日本のものづくり競争力基盤の変遷、日本経済新聞出版社、2011/8/24」に詳しい。ここでの本題は、生産活動様式と表裏をなす日本産業のコミュニケーション活動様式の変容である。まずは、本稿末にまとめた「資料：産業日本語関連に係わる出版物」を参照願いたい。

本資料は、産業日本語や産業文書・文章ライティングに関連すると思われることに係わる最近の出版物の一覧である。単行本は、2013年8月末から2010年までのものを時系列に並べた一覧である。すべてを網羅したわけではないが、できるだけWeb上で探し、筆者の手元にあるものを追加した。2009年以前に関しては、筆者の手元にあり、参考にすべき内容を含むと思われるものを挙げた。雑誌は、2013年と2012年における主要なビジネス経済誌における特集号である。

筆者にも、この分野には、かなりの出版物があるという認識はあった。ただし、毎月1冊ぐらいいは出版されているという程度の認識であった。調べてみて、その量の多さに驚いた次第である。年を追うごとに増えている。増えるということは、それだけ売れるということである。この8月半ばの新聞に5月に出版された単行本の広告が載った。「絶好調!!2.5万部突破!!」と謳われていた。出版不況の最中であって、これは悪くない数字である。

日本産業のコミュニケーション活動様式の急速な変化に対応するために、各人それぞれが個別の努力を始めた。

大量のビジネススキル・ノウハウ本の出版である。言語コミュニケーションに対しても、それぞれが何とかせねばとの思いに駆られ、そのそれぞれの思いにそれぞれに文章実務家達が応える。この底流となるニーズとそれへの即応的な対応、その反映が、本稿末資料の出版状況である。

言語コミュニケーション活動様式への産業界の対応は、日本語に対しては、いまだ、産業界として、あるいは、我が社としてという自覚された対応にはなっていない。自覚された対応は、英語に対してである。英語の社内公用語化、昇進資格や採用資格へのTOEFL・TOEIC評価点の組み込み等々、日本産業界にとっては、今や、イングリッシュ・アズ・ナンバーワンである。

英語への自覚された対応、しかし、これはあくまでも応急処置であろう。急激な変革が迫られているのである。応急処置が必要である。「No English, no job.」と叱咤するのも応急処置としては必要である。英語を社内公用語とした某社でのことである。日々の社内会議が簡潔に済むようになったとのことである。英語では複雑な状況を表現することが難しくなることによる効用である。日本人は、日本語で考える。日本語と英語、複数の言語で高度な思考が行える能力を持てる者は限られる。さらに、言語に関する能力だけが必要な能力ではない。色々なものを作ったり、創ったりする能力、色々なことを解明したり、企てたりする能力、これらの能力が本来求められる能力である。世界市場で、英語だけで勝負できる国々、日本語と英語を抱えて勝負しなければならない日本、現状の英語への自覚された対応はあくまでも応急処置であると自覚すべきである。

クラウドとタブレット端末による資料の共有やプレゼンへの活用、SNSの利用等々、ICT技術への対応も産業界の自覚された対応である。ただし、その多くは、PCやネットワークによる旧来型のICT業務環境を効率化し経費節減化するための対応である。知識マネジメントや技術マネジメントを効果的に実現するという対応にはなっていない。産業知識・企業知識を協創し増幅するための自覚された対応には、言語コミュニケーションに対する自覚された対応が不可欠である。

産業日本語へのニーズは、自覚されたニーズではない。産業界は、新しい生産活動様式への模索に追われ、コミュ

コミュニケーション活動様式へは応急対応に留まる。それでは、産業日本語論議は、産業界が新しい生産活動様式を確立し終え、余裕が持てるようになるまで待つべきなのであろうか。そうではなかろう。産業界の生産活動様式の模索と並行して、産業日本語という新しい言語コミュニケーションの活動様式を模索、提言していくことが求められているのである。

産業日本語に関わる取り組みは、提言型の取り組みでなければならない。理由は2つである。第1の理由は、新しい生産活動様式への模索は、短期間に結論のどろ話ではない。様々なものが錯綜する中で、永く、永く続く模索となろう。新しいコミュニケーション活動様式への模索は、並行して進めねばならないものになる。むしろ、コミュニケーション活動様式への模索が、生産活動様式の模索を先導する場面も期待されているのである。

第2の理由は、産業界が、一昔前の狭い枠に納まらなくなってきたことである。コンテンツ産業にサービス産業、教育産業に医療産業、農業や水産業の工業化、製造業の情報化等々、ICT技術やバイオ関連技術によって、すべての社会活動の産業化という産業様式の大きな組み換えが始まっているのである。新たなコミュニケーション活動様式そのものが新たな産業の生産活動様式となる場面も期待されているのである。

2 日本人の日本語知識は、自覚的なものではない

日本人は、日本語を使うことはできるが、日本語そのものについて知っているわけではない。すなわち、日本人の日本語に係わる知識は、自覚的なものではない。これは、日本人や日本語に限ったことではない。いかなる言語についても、母語話者は、母語を使いこなせるが、母語について知っているわけではない。日本人は、英語を使いこなすのは苦手であるが、受験勉強のおかげで英語そのものの知識は、英語母語話者より卓越している。

本稿末資料を再度参照していただきたい。この大量の出版物は、多彩な内容をカバーするために増えてしまったということではない。ほとんどの内容が繰り返しである。もちろん、最近の傾向として、メールやウェブページやソーシャルメディアにおける文章術を説くもの、医

療・福祉分野や法律分野など分野ごとの文章術を説くもの、このように間口が広がってきていることは事実である。しかし、それとて、それぞれが非常に特徴的であるというわけではない。大半の共通の事柄に、少々の特徴となる事柄が加味されるという体裁である。そして、内容の重複をカバーして読者の購買心を引き立てるために、過激なタイトルや宣伝文句が付けられるのが最近の傾向である。

言語を学ぶことをスポーツ・トレーニングに例え、文章術を指南することをスポーツ・コーチングに例えることができる。私達は、走ったり、跳んだり、投げたり、掴んだりという基本となる身体動作は、本能的に習得する。母語となる言語の習得も同様である。学校の体育教育の中で、あるいは、スポーツ教室を通じて、色々なスポーツのプレースキルを学ぶ。同様に、国語教育や英語教育、加えて各教科を通じて、色々な言語運用のスキルを学ぶことになる。プレーヤーとしてより高度なスキルを身に付けるためには、専門のコーチによる指導が必要になる。それでは、本稿末資料の文章術指南書は、スポーツの専門コーチによるコーチングと同様にといえるであろうか。

スポーツ・コーチングは、大きく2つの部分からなる。まず、プレーヤーにプレーの仕組を理解させること、次に、プレーヤーが仕組に従ったプレーを実行できるようにすることである。プレーの仕組は、身体に関するスポーツ生理学や競技の仕組に関する競技理論から成り立つ。ただし、プレーの仕組を教えるということは、生理学や競技理論をそのまま教えることではない。学問的諸理論は、プレーヤーが実行可能な実施モデルに組み直されねばならない。なお、天才的なプレーヤーは、この実施モデルを本能的に身につけ身体化できる。そして、名プレーヤーは、名コーチにはなれないともいわれている。

文章術指南、すなわち、文章ライティング・コーチングも、同様の2つの部分を含まねばならない。日本語による文章ライティングの仕組を理解させること、そして、その仕組に従ってライティングを実行できるようにすることである。文章ライティングの仕組は、日本語や日本語文章の仕組に関する言語学、ドキュメント構成の仕組に関するドキュメンテーション論から成り立つ。た

だし、同様に、ライティングの仕組を教えることは、言語学やドキュメンテーション論をそのまま教えることではない。教えるのは、組み直された実施モデルである。なお、小説家等の名作家達は、天賦の才として卓越した実施モデルを身につけた人達である。

本稿末資料の文章術指南書の最近の傾向として、日本語の仕組、言葉の仕組から文章ライティングを説くという工夫が始まっている。ただし、始まったところである。私達日本人には、日本語そのものの仕組の教育については、記憶に残るほどのものがない。わずかに、動詞の活用形を丸暗記させられた学校文法の記憶があるだけである。日本語の仕組を教えることは、日本語の文法を教えることではない。日本語がどのようにして情報を表現し、どのようにして情報を伝えるのか、日本語の情報表現・伝達機能の仕組を教えることである。

日本語の仕組の教育については、本来、言語の仕組を追求しているはずである言語学の側にも責任がある。永らく、科学であることを目指す理論言語学が言語学の主流を占めてきた。その理論言語学は、科学となるために計算論的モデルを採用し、科学として取り扱える言語現象を文単位の構文現象に絞ることによって学問的地位を確保してきた。得られた成果は、私達の日常的な言語直感には沿い難く、文章術の実施モデルに対応付けるには程遠いものであった。

研究対象を文単位の構文論に絞り込んだ理論言語学が一定の成果をあげ、同時に、学問としての成熟・飽和傾向を迎える中で、言語学にも大きな組み換えが始まっている。研究対象が、意味論的現象、さらには、語用論的現象、すなわち、言語現象全体へと拡大され始めた。伴って、言語モデルを作為的なモデルから、日常的言語感覚に沿うモデルへと移し変える作業が始まっている。

人間の認知的営みという包括的なモデルに基づく認知言語学 (cognitive linguistics)、社会的コミュニケーション機能として言語現象を捉えようとする機能言語学 (functional linguistics)、言語学習や言語教育の観点から複数言語を対比する対照言語学 (comparative linguistics) などの動きである。これらの言語学における成果は、多くが素直に日常的な言語直感に沿い、文章ライティング・コーチングの実施モデルに採用することができる。ただし、実施モデルとするには、言語学的

成果をコーチングの観点から解釈し直すことが必要となる。この解釈し直し作業は、文章実務家の個人的体験に依りがちな現状の文章術指南を手順立った体系的コーチングへとステップアップさせるために必須の作業である。

3 ガイドライン策定のガイドライン

産業界のニーズ、日本人の日本語知識、いずれもが自覚的なものではない。このことを踏まえて、産業日本語ガイドライン策定を進める上での指針をまとめてみる。まず、産業日本語が果たすべき役割である。産業日本語は、日本産業界の新たなコミュニケーション活動様式の骨格となり、その知的生産性を飛躍させる役割を担う。とりあえず、以上がその役割であるとしよう。そうすると、必ずといっていいほど次のような質問が起こる。「産業日本語によって、日本産業界の知的生産性は、何パーセントぐらい向上するのですか」である。それは、効果が数値化されないと産業日本語推進の説得が難しいとの考えからであろう。そして、また、そのパーセンテージが、かなりの数値となることを期待しているふしがある。

産業日本語による知的生産性の向上は、何十パーセント、いわず、何倍になったりするようなものではない。高々、5パーセントぐらいの向上と見切っておくことである。この向上によって、日本の総労働人口6,545万人(2011年の総務省集計)に300万人以上の余力が生まれる。従業員1万人の会社であれば、500人の余力が生まれる。この余力をこれ程もと思うのか、この程度かと思うのかである。

もともと、知的生産性の向上というのは、何にしろ一桁台のパーセントのものであろう。そこが、物理的なものの生産性の向上とは異なる。ただし、知的なものの生産性向上の効果は、物理的なもののように単に線形的に波及するのではない。会社に生まれた500人の余力が、ブレークスルーを生み出し、物理的なものの生産性を飛躍させるかもしれない。どう余力を活用するかは、経営者の手腕である。

米国政府が進めている政府文書を分かりやすい言葉で分かりやすく書く平易化活動がある。Plain



Language、あるいは、Plain Writing と呼ばれている。2010年10月13日に“Plain Writing Act of 2010” (<http://www.plainlanguage.gov/>) と略称される公法が米国議会で承認され、オバマ大統領が署名し発効した。この法案の立案にあたった Bruce Braly 下院議員の言葉に、“Writing documents in plain language will increase government accountability and will save Americans time and money.” とある。法案審議の過程で、「accountability は何パーセント向上するのか」、「time and money は何パーセント save されるのか」などという議論があったとは思えない。協力して活動する市民団体のホームページ (<http://centerforplainlanguage.org/>) には、“Plain language is a civil right.” とある。

本章冒頭に述べた役割を産業日本語に期待するとして、ガイドラインの論点を列挙しておく。なお、ガイドラインは、あくまでもガイドラインである。産業日本語の標準仕様を決めようなどというものではない。このガイドラインを参考にしながら、個々の現場での産業日本語の仕様や用法が個別に定められることになる。なお、ガイドラインには、納まるべき範囲を示すガードレール的なものとプロトタイプ事例を示すセンターライン的なものに分かれる。ここでのガイドライン論議には、全体的にセンターライン的なものが、まずは、納まりが良いと思われる。

以下に、検討すべき主要な項目を列挙する。

(1) 産業日本語に求められる言語機能の諸相

文章ライティングのどの段階に用いるかによって、求められる日本語の機能は異なってくる。例えば、思考のツールとして試行錯誤を柔軟に支援するための日本語機能（試みる日本語）、思考を精密化し要件を満たし対象を正確に表現するための日本語機能（表わす日本語）、読み手が効率よく間違いなく読み取れるように明解に表現するための日本語機能（伝える日本語）、多言語翻訳の中継（中間）言語となり外国語へ直訳できるようにするための日本語機能（訳せる日本語）等々である。また、どのような伝達様式の文章に用いるかによっても、求められる日本語の機能は異なってくる。例えば、共通の知識や推論に大きく委ねることを前提に印象深くテンポ良く伝えるための日本語機能（的確な日本語）、誤った読

み方が生じないように正確に効率よく伝えることを旨とする日本語機能（正確な日本語）、趣旨に反する読み方ができないよう解釈を限定するように厳格に伝える日本語機能（厳格な日本語）等々である。さらに、マルチメディアの中核メディアとして、どのようなメディアと連携表現するのかに対して求められる日本語の機能がある。例えば、図・表と連携表現するための日本語機能、数式と連携表現するための日本語機能、仕様記述言語と連携表現するための日本語機能等々である。

(2) 産業日本語のプロトタイプの仕様

産業日本語の言語としての仕組を実施モデルとしてモデル化する。このモデルに基づいて、求められる日本語機能それぞれに対応するためのプロトタイプの仕様をまとめる。この実施モデルの要点は、情報の内容表現のモデル化とそれからの表層表現生成のモデル化からなる。これらのモデル化は、言語学や言語処理での形式的モデル化と異なり、ヒトが直感的に理解し操作できるモデル化である。実施モデルのもうひとつの特徴は、プロトタイプ的な言語現象に絞るということである。言語学者は、とかく例外的な言語現象に注目しがちである。また、言語処理が対象とする実言語データには、かなり不規則な言語現象が含まれている。この不規則現象を処理できるようにするため、言語処理は、四苦八苦の苦勞を重ねている。しかし、この不規則現象のほとんどは、日本語の仕組にとって不可欠というものではない。ヒトの場当たり的な言語運用によってもたらされる現象である。

(3) ライティング支援・テキスト処理

産業日本語文章に対する作成・校正・推敲支援に関するツール・環境をまとめる。現状の調査と期待する次世代仕様をまとめる。翻訳、要約、検索、情報抽出等のテキスト処理について、現状システムを効果的に使うための産業日本語のプロトタイプの仕様、期待される次世代システム、この2つの観点からまとめる。

(4) 各種産業文書とその文章特性

産業文書各論である。代表的な産業文書を列挙し、それぞれの記載要件や文章特性をまとめる。

資料：産業日本語関連に係わる出版物

【単行本】

2013年

日垣 隆：文章力飛躍最終兵器 第1弾 基礎編(2013/8/17)
 日垣 隆：文章力飛躍最終兵器 第2弾 実践編(2013/8/17)
 日垣 隆：文章力飛躍最終兵器 第3弾 仕上げ編(2013/8/17)
 米村貴裕：天使の法則：役立つ文章の世界へ(2013/8/9)
 坪田知己：共感文章術シリーズ1 読まない人に読ませる共感文章術 ネット時代の文章術・基礎編(2013/8/6)
 入部明子：パワーライティング入門：説得力のある文章を書く技術(2013/8/5)
 木山泰嗣：頭が10倍よく見える文章の書き方：弁護士が書いた「伝わる」文章術(知的生きかた文庫)(2013/7/22)
 福嶋隆史：“ふくしま式 200字メソッド”で「書く力」は驚くほど伸びる(2013/7/19)
 高橋俊一：決定版！ すっきり書ける文章のコツ 80(2013/6/28)
 小林洋介：デキる大人の文章力教室(2013/6/27)
 木暮太一：伝え方の教科書(2013/6/25)
 中野 巧：6分間文章術一息を伝える教科書(2013/6/21)
 イケダハヤト：武器としての書く技術(2013/6/19)
 小野泰央：創造するための文章(2013/6)
 中谷彰宏：「ひと言」力。サッと書いて、グッとくる99の方法(2013/5/28)
 前田安正：さっちゃん！ 恥ずかしくない！ 文章が書ける(2013/5/23)
 高橋廣敏：7日で身につく 正しい文章の書き方(2013/5/21)
 出口 汪：あなたも突然、上手に書けるようになる 7日間「大人の論理エンジン」で本物の文章力が身につく(経済界新書)(2013/5/10)
 安藤智子：電子書籍を出す人は知っておきたい文章術 どんな原稿も必ず格上げする「秘伝」公開(2013/5/9)
 新星出版社編集部：図解まるわかり 文章術の基本—ビジネス力をグンと上げる(2013/5)
 平野友朗：ちよっとの工夫で仕事がぐんぐんはかどるビジネスメール術—仕事ができる人がやっている43のルール(2013/4/19)
 山口拓朗：文章が変わると人生が変わる！ 文章力アップ33の方法(2013/4/17)
 結城 浩：数学文章作法 基礎編(ちくま学芸文庫)(2013/4/11)
 杉山美奈子：ビジネスメールの作法と新常識 会社では教えてくれない気づきメール術(アスキー新書)(2013/4/10)
 高橋源一郎：ぼくらの文章教室(2013/4/5)
 村岡貴子、因 京子、仁科 喜久子：論文作成のための文章力向上プログラム・アカデミック・ライティングの核心をつかむ(2013/4/5)
 神垣あゆみ：言いたいことが5秒で伝わるメール術(2013/4)
 佐田麻里子：読まれるための文章読本(2013/3/29)
 尾渡島紗織、太田 裕子：文章チャタリングの理念と実践—早稲田大学ライティング・センターでの取り組み(2013/3/28)
 赤羽博之：書くスキルUP すぐできる！ 伝わる文章の書き方 確実に文章力がつく！7つのステップ(2013/3/20)
 外岡秀俊：「伝わる文章」が書ける作文の技術(2013/3/12)
 銅田信子、坂東実子：大学生のための文章表現&口頭発表練習帳(2013/3/8)
 園部俊晴：医療・福祉で役立つ「効果的な文章の書き方」入門講座(医療・福祉で働く人のスキルアップシリーズ)(2013/3/1)
 前田めぐる：ソーシャルメディアで伝わる文章術(2013/3)
 山口拓朗：ダメな文章を達人の文章にする31の方法 なぜあなたの文章はわかりにくいのか？文章の書き方が分かる本(縦組版)(2013/2/18)
 吉岡友治：いい文章には型がある(PHP新書)(2013/2/17)
 中川路亜紀：ビジネスメール文章術(2013/2/16)
 竹内政明：「編集手帳」の文章術(文春新書)(2013/1/20)

2012年

福澤一吉、にしかわ たく：論理的に読む技術 文章の中身を理解する“読解力”強化の必須スキル！(サイエンス・アイ新書)(2012/12/18)
 岡本 真：ウェブでの「伝わる」文章の書き方(講談社現代新書)(2012/12/18)
 石黒 圭：正確に伝える！ わかりやすい文書の書き方(2012/12/13)
 うすたか (白井総理)：ハッキリ文章術(2012/12/1)
 出口 汪：出口 汪の論理的に書く技術(ソフトバンク文庫)(2012/11/22)
 倉島保美：論理が伝わる 世界標準の「書く技術」(ブルーバックス)(2012/11/21)
 外岡秀俊：「伝わる文章」が書ける作文の技術 名文記者が教える65のコツ(2012/10/19)
 久恒啓一：図で考えれば文章がうまくなる(2012/10/5)
 プレジデントムック：書き方の基本 まねて書ける！OK文例集—ビジネス文書からメール、ツイッター、フェイスブックまで(2012/10/1)
 山口拓朗：ダメな文章を達人の文章にする31の方法 なぜあなたの文章はわかりにくいのか？文章の書き方が分かる本(横組版)(2012/10/1)
 栗倉敏貴：介護職の文章作成術(2012/9/10)
 阿部純久：シンプルに書く！ 伝わる文章術(2012/9/6)
 校條 剛：朝5分！読むだけで文章力がグッと上がる本(ナガオカ文庫)(2012/7/20)
 山崎政志：文章力の「基本」が身につく本：伝わる文章が書ける76の簡単テクニック(2012/6/26)
 石崎秀徳：あなたの文章が「みるみる」わかりやすくなる本(2012/5/8)
 樺沢紫苑：SNSの超プロが教える ソーシャルメディア文章術(2012/4/4)
 月野るな、戸田美紀、小谷俊介、カトウナオコ：世界一やさしい「人脈」と「収入」をザクザク生み出すブログ文章術(2012/3/26)
 メアリ・K・マカスキル著、片岡英樹訳・解説：NASAに学ぶ英語論文・レポートの書き方—NASA SP7084テクニカルライティング—(2012/2/25)
 木暮太一：誰にでも伝わる 文章力のつくり方(2012/2/24)
 石黒 圭：この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本(2012/2/23)
 山本ゆうじ：IT時代の実務日本語スタイルブック(2012/2/16)
 木山泰嗣：センスのよい法律文章の書き方(2012/2/8)
 西田みどり：“型”で書く文章論—誰でも書けるレポート講座(2012/2)
 古賀史徒：20歳の自分に受けさせたい文章講義(星海社新書)(2012/1/26)
 小笠原信之：伝わる！文章力が豊かになる本(2012/1/7)

2011年

高橋俊一：すっきり！ わかりやすい！ 文章が書ける(2011/12/20)
 平野友朗：お客様から選ばれたウェブ文章術(2011/11/19)
 苦米地英人：人を動かす【超】書き方トレーニング 劇的な成果が手に入る驚異の作文術(2011/11/16)
 堀内伸浩：あたりまえだけどなかなか書けない 文章のルール(アスカビジネス)(2011/10/18)
 野内良三：伝える！ 作文の練習問題(2011/9/30)
 近藤勝重：書くことが思いつかない人のための文章教室(幻冬舎新書)(2011/9/29)
 上阪 徹：文章は「書く前」に8割決まる(2011/9/21)
 堀井憲一郎：いますぐ書け、の文章法(ちくま新書)(2011/9/5)
 木山泰嗣：もっと論理的な文章を書く(2011/8/27)
 西村克己：[ポイント図解] 論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本—

「わかりやすい文章」を書くための基本ポイント 35(2011/8/26)
 西川真理子：図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック：ノート、レポート、手紙・メールから、履歴書・エントリーシート、卒論まで(2011/8/14)
 吉村公宏：英語世界の表現スタイル—「捉え方」の視点から(2011/5/30)
 藤原智美：文は一行目から書かなくていい—検索、コピー時代の文章術(2011/5/27)
 小田順子：誰も教えてくれなかった公務員の文章・メール術(2011/5/19)
 樋口裕一：文章力の鍛え方(中経の文庫)(2011/4/27)
 高橋フミアキ：150字からはじめる「うまい」と言われる文章の書き方(2011/4/21)
 高橋フミアキ：伝わる文章の書き方(2011/4/15)
 猪野真理枝、佐野 洋：英作文なんかこわくない 日本語の発想でマスターする英文ライティング(2011/4/15)
 山崎康司：入門 考える技術・書く技術(2011/4/8)
 一般財団法人テクニカルコミュニケーション協会：日本語スタイルガイド第2版(2011/4/1)
 黒木登志夫：知的文章とプレゼンテーション—日本語の場合、英語の場合(中公新書)(2011/4)
 酒井聡樹：100ページの文章術—わかりやすい文章の書き方のすべてがここに—(2011/3/10)
 村田喜代子：縦横無尽の文章レッスン(2011/3/4)
 田中 豊：法律文書作成の基本 Legal Reasoning and Legal Writing(2011/2/20)
 上原広嗣、石原知樹、寄藤文平：文章には「道」がある 10代20代のための日本語を読む技術 Part1(2011/2/9)
 黒田龍之助：大学生からの文章表現 無難で退屈な日本語から卒業する(ちくま新書)(2011/2/9)
 杉山博亮：論文答案作成教室—法律的文章を書くコツ(2011/2)
 小笠原信之：伝わる！文章力が身につく本(2011/1/29)
 飯間浩明：伝わる文章の書き方教室 書き換えトレーニング10講(ちくまブリーマー新書)(2011/1/7)

2010年

齋藤 孝：誰も教えてくれない人を動かす文章術(講談社現代新書)(2010/12/17)
 上阪 徹：書いて生きていく プロ文章論(2010/11/26)
 堀内伸浩：ビジネス文章5ステップ上達法—今の自分の文章がわかる診断テスト付き(2010/9)
 阿部純久：明快に書く！心をつかむ文章力(知的生きかた文庫)(2010/9/21)
 白井由紀：仕事の文章は3行でまとめたさい(2010/8/25)
 成川豊彦：【決定版】成川式 文章の書き方(PHP ビジネス新書)(2010/8/19)
 磯崎陽輔：分りやすい公用文の書き方 改訂版(2010/8/6)
 野内康史：「売れる」文章 51の技—説得力あるキャッチコピーの作り方(2010/8/3)
 阿部純久：文章力の基本 100題(2010/6/19)
 スティーブ・D・スターク、小倉京子：訴訟に勝つ実践的文章術(2010/6/18)
 松枝由紀：「売れる」文章が書ける 実践的ライター入門(2010/6/4)
 日経 PC21：サクサク作成！ エクセル文書ワザ99(日経 ビジネス文庫)(2010/6/2)
 藤田英時：メール文章力の基本 大切だけど、だれも教えてくれない77のルール(2010/5/27)
 野内良三：日本語作文術(中公新書)(2010/5/25)
 高橋憲治：あたりまえだけどなかなかできない 文章のルール(アスカビジネス)(2010/5/17)
 芦永奈雄：コミュニケーション力を高める文章の技術(フォレスト 2545 新書)(2010/5/7)
 橋本浩司：「箇条書き」を使ってまとまった量でもラクラク書ける文章術(2010/4/16)
 田邊善治：電力社員の文章講座(2010/3)
 内藤謙人：心理学者が教える 思いどおりに人を動かすブラック文章術(2010/2/23)
 近藤勝重：早大院生と考えた文章がうまくなる13の秘訣(2010/1/25)
 松下健次郎、山本高樹、白根ゆたな：これは「効く！」Web文章作成&編集術逆引きハンドブック(2010/1/21)

2009年～

石黒 圭：よくわかる文章表現の技術I～V(2009/11～2005/10)
 原田豊太郎：理系のための英語「キー構文」46(2009/9/20)
 阿部純久：文章力の基本(2009/8/1)
 三浦順治：英語流の説得力をもつ 日本語文章の書き方(2009/6/11)
 中井浩一：正しく読み、深く考える 日本語論理トレーニング(講談社現代新書)(2009/2/19)
 阿部純久：明文術 伝わる日本語の書きかた(2006/7/25)
 照屋華子：ロジカル・ライティング 論理的にわかりやすく書くスキル(2006/4/6)
 柳瀬和明：「日本語から考える英語表現」の技術(2005/3/20)
 高橋昭男：日本語テクニカルライティング(2004/5/26)
 藤沢見治：「分りやすい文章」の技術—読み手を説得する18のテクニック(ブルーバックス)(2004/5/21)
 野内良三：実践ロジカル・シンキング入門—日本語論理トレーニング(2003/2/1)
 原田豊太郎：理系のための英語論文執筆ガイド ネイティブとの発想のズレはどこに？(2002/3/20)
 片岡英樹：技術英文作成に必須！テクニカル・ライティング 50のルール(2001/5/1)
 木下是雄：理科系の作文技術(中公新書)(1981/1)

【雑誌】

PRESIDENT (プレジデント)
 2013年8月19日別冊：うまい文章の全技術
 2013年4月1月号：資料の作り方
 2012年7月16日号：1億稼ぐ人の話し方
 2012年4月16日号：一流の思考法 落第思考法
 2012年3月19日号：「すべらない」書き方
 週刊ダイヤモンド
 2013年8月24日号：伝える技術
 2012年4月7日号：「話し方」入門
 2012年3月3日号：身につく！ 英語&中国語
 2012年1月14日号：ビジュアル活用仕事術
 週刊東洋経済
 2012年6月2日号：脱TOEICの英語術
 ニューズウィーク 日本版
 2013年7月23日号：TOEFL時代を制する英語術